

コミュニケーション、それが安全な運転の心髄

2022年10月



図1. 校正前の流量計

経験の浅いオペレーターが、引火性溶剤の定期的な移送を伴うプロセスの運転をしていた。メンテナンス担当者が流量計を取り外して作業室で修理と校正を行うため、その運転の一部が停止された。その他の工程は運転を継続していた。流量計が再び設置され、メンテナンス担当者はその場を離れた。オペレーターは運転可能な状態になったと思い、溶剤の移送を開始した。フランジの1つがしっかりと締められていなかったため、オペレーターが溶剤を被った。彼は安全シャワーを浴びて、ケガはなかった。事故に発展することなく、漏洩した溶剤は清掃された。

なぜ、このようなことが起こったのか。現在私たちが用いているプロセス安全システムの多くが、まだ導入されていなかったのである。ロックアウト・タグアウト (LOTO) は正規なものになっておらず、タグのみを使用し、ロックアンドタグになっていなかった。メンテナンス作業のための作業許可制度や正式な連絡方法もなかった。

深く調べてみると、そのオペレーターはプロセスを早く再開したいと思っていたようで、作業の完了を確認しなかった。もしかしたら、メンテナンス担当者は別のガスケットを取りに行っていたのかもしれない。彼は、プロセスエリアを離れる前に、状況についてオペレーターに説明していなかった。溶剤の閉止バルブにタグがついていなかったため、「作業完了」と解釈された。

知っていますか

- 私たちが現在使っている安全システムの多くは、過去に起きた事故から生まれたものである。事故の再発防止のためのものである。
- コミュニケーションは常に重要であるが、複数の作業チームが関与している場合にはなおさらである。チーム数が多いほど、正式なコミュニケーションの必要性も高くなる。
- 多くの企業では、承認作業の前・中・後でコミュニケーションを確実にを行うために、作業許可制度を用いている。通常、安全分析や危険性分析、作業エリアの検査、権限を持つ担当者による承認が含まれている。
- 作業許可証は単に形式的なものではない。作業範囲を明確に示し、すべてのチームが作業全体を把握し、付随する如何なる許可 (LOTO、火気使用作業、閉所作業) も適切に出されていることを確認するためのツールである。また、すべての許可が適切に得られていて、作業が安全に進められることを確認する手段でもある。
- 作業の進展に伴い、作業範囲が変更されることがある。すべてのチームにとって重要なことは、変更内容を伝え、作業を継続しても安全かどうかを検討することである。これは、安全レビューを行ない、修正された作業計画が作成されて承認されるまで、作業を停止することを意味するだろう。

あなたにできること

- 自社の作業許可制度の仕組みをよく理解すること。
- 許可が必要な作業の危険性分析に積極的に参加すること。特定の状況や危険性について知っているのは、自分しかその場にはいないかもしれない。
- 自分のエリアで非定常作業が行われる場合、自分の役割を知ること – その作業内容と運転再開に何が必要かを理解すること。
- プロセスを再開する際は、作業計画書に従うこと。何か変だと思ったら、作業を止めて上司に聞くこと。多少の遅れは、事故やニアミスよりもずっとましである。
- プロセスが安全に運転できるように、作業くずや工具が取り除かれているかを確認すること。プロセス物質や機器の残骸には、適切な廃棄ラベルが貼られていること。

メンテナンス後の機器が使用可能か分らなければ、尋ねること!